



2024年5月15日

各位

会社名 カーリットホールディングス株式会社  
(URL : <https://www.carlithd.co.jp>)  
代表者名 代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文  
(コード番号 4275 東証プライム)  
問合せ先 広報・サステナビリティ推進室長 島田 拓  
(TEL : 03-6893-7060)

## 中期経営計画「Challenge2024 グローアッププラン 2024」の更新に関するお知らせ

当社は、2024年5月15日開催の取締役会において、2024年3月26日に公表しました中期経営計画「Challenge2024 グローアッププラン 2024」を更新することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

### 1. 更新の理由

本日、別途2024年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)を開示いたしました。これに伴い、中期経営計画「Challenge2024 グローアッププラン 2024」に記載した各種業績数値および目標等を更新するものです。なお、中期経営計画の基本方針や施策については変更ございません。

### 2. 計画の更新点

更新ページ	更新箇所	更新前	更新後
3 ページ	2023 年度 営業利益	3,150 (百万円)	3,352 (百万円)
	2024 年度 営業利益目標	3,650 (百万円)	3,800 (百万円)
4 ページ	当社のポジション PBR	0.63~0.68 倍	0.68~0.75 倍
	当社のポジション ROE	7.01%	7.07%
8 ページ	株主還元に関する記載	記載無し	記載有り (総還元性向を 30% とした利益還元)
	FY23 配当予想額・配当性向	記載無し	33 円/株、30%
9 ページ	中計最終年度目標 PBR	~0.75 倍	~1 倍
	将来のポジション PBR	1 倍~	1.2 倍~

以上

# 中期経営計画 Challenge 2024

---

## グローバルアッププラン 2024

---

2024年5月15日更新  
カーリットホールディングス株式会社

# 経営環境の振り返り：環境変化

## ◆ 2023年～2024年における環境変化

社会・経済環境

- ✓ ウクライナ侵攻長期化、中東紛争過激化による、世界情勢の不安定化
- ✓ 物流業界 2024年問題による運送コストの変動
- ✓ 電子材料や半導体材料需要の低迷が継続

上場企業に対する要請

- ✓ PBR向上を目的とした、資本収益性や市場評価の改善要請  
→ 2023年3月以降、更なる進展が期待されている

## ◆ 2023年～2024年における当社の状況

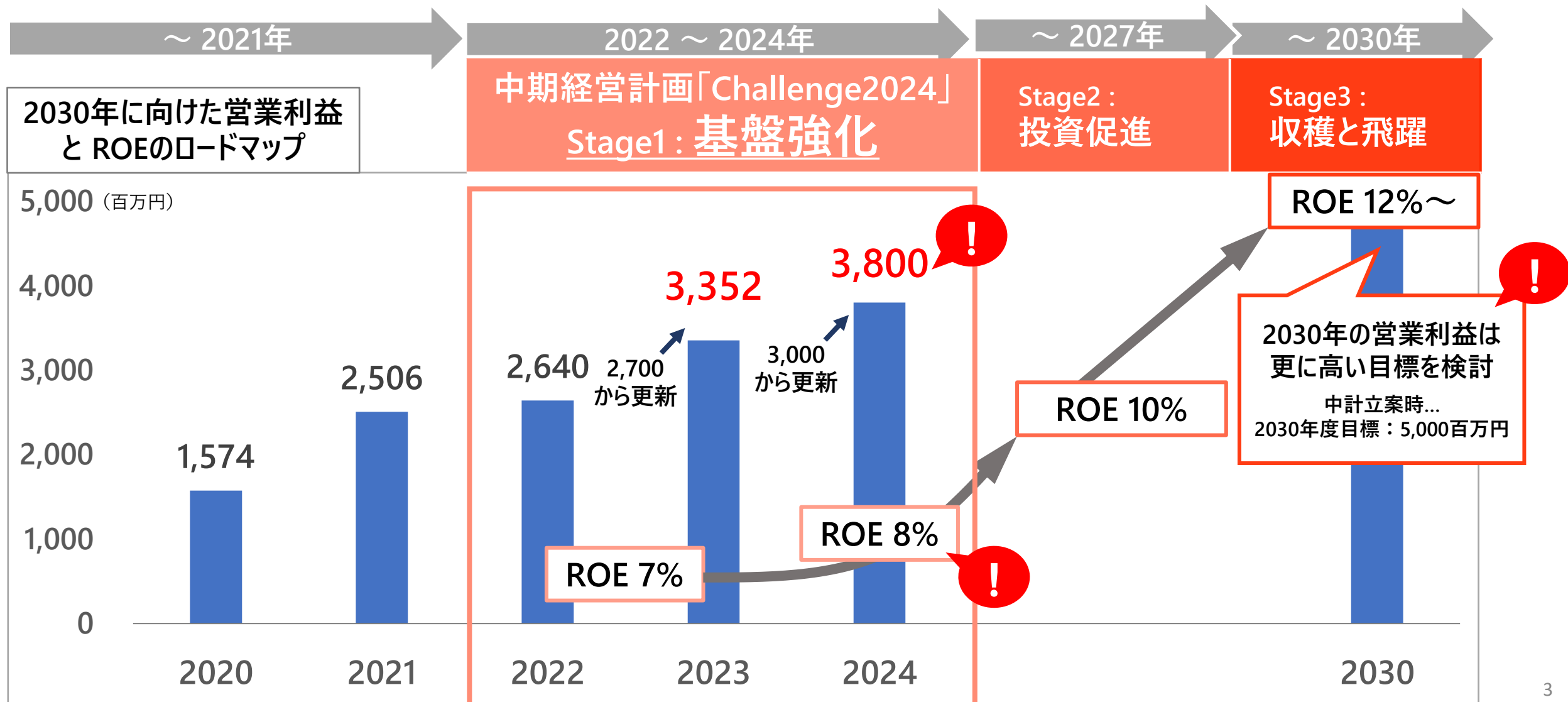
- 過去最高益見込。中計「Challenge2024」目標営業利益を前倒して達成
- 中計「ローリングプラン2023」にて掲げた資本収益性の改善は道半ば



▶ 更なる成長に向け、「グローアッププラン2024」を策定

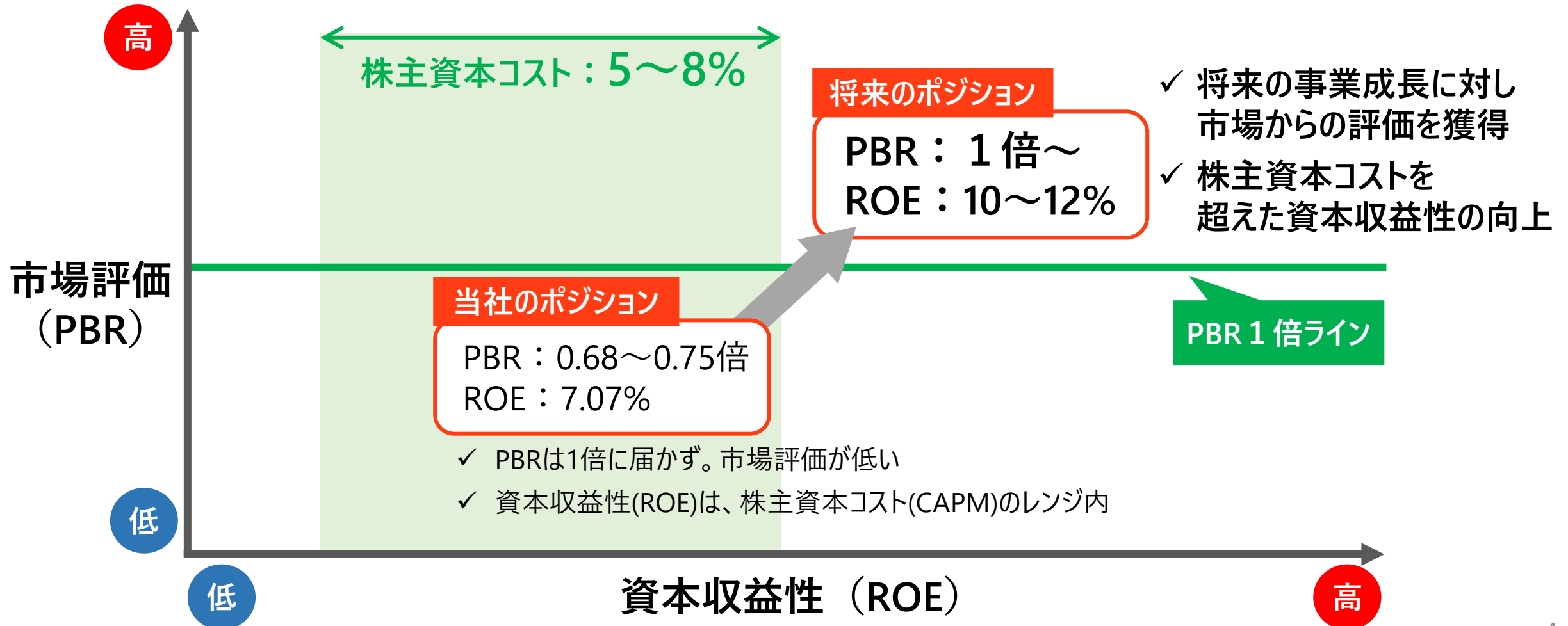
# 2030年に向けたロードマップ

## ◆ ロードマップにおける営業利益目標値を更新



# 資本収益性と市場評価に関する分析

- ◆ 資本収益性と市場評価に関するマトリクスにおいて、当社のポジションを確認
- ◆ 中期経営計画「Challenge2024」、「ローリングプラン2023」に加える改善策を検討

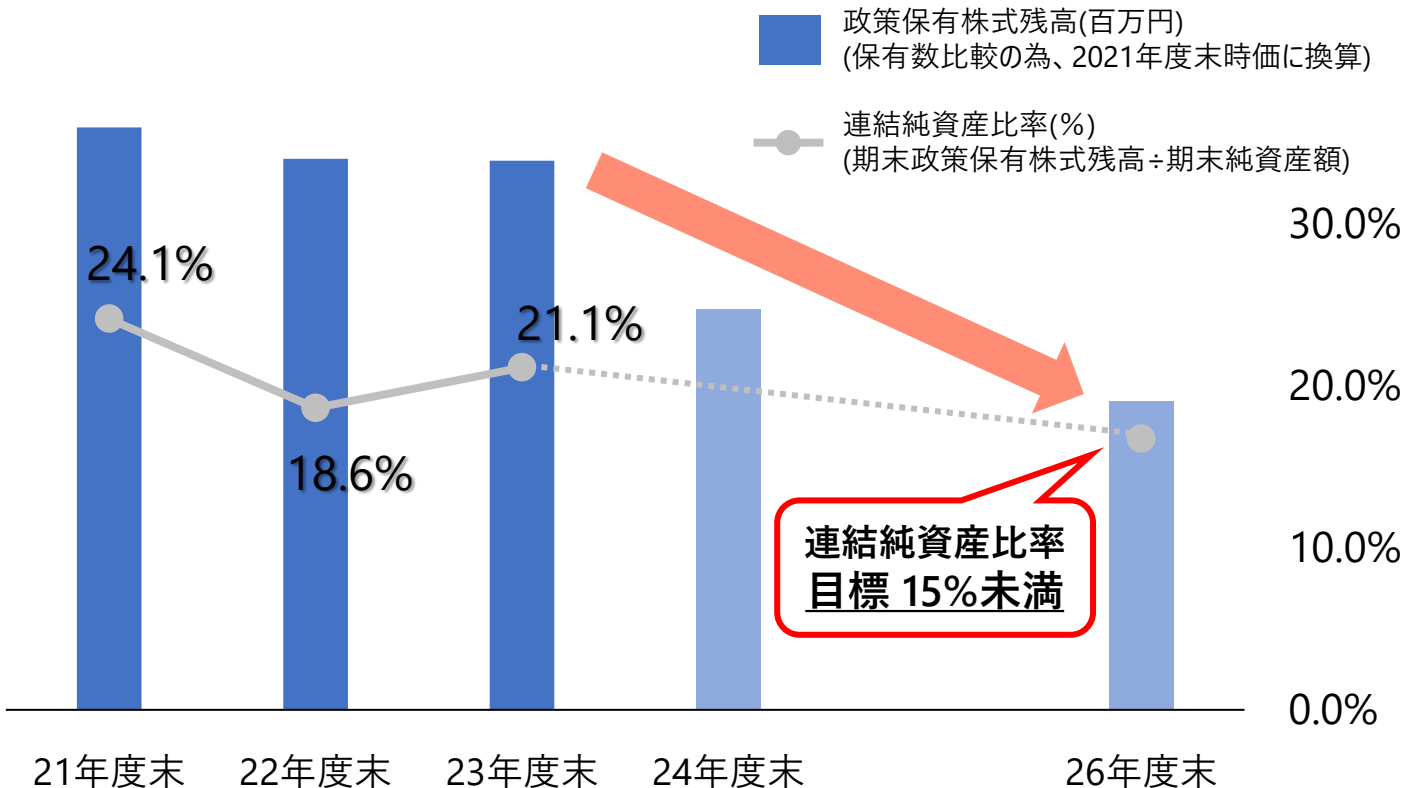


# 政策保有株式の縮減方針



(中計「Challenge2024 ロールングプラン2023」より抜粋)

- ◆ グループの更なる成長をファイナンス面から実現する、バランスシートを意識した経営
- ◆ 政策保有株の縮減を進めていき、資産のスリム化を推進する



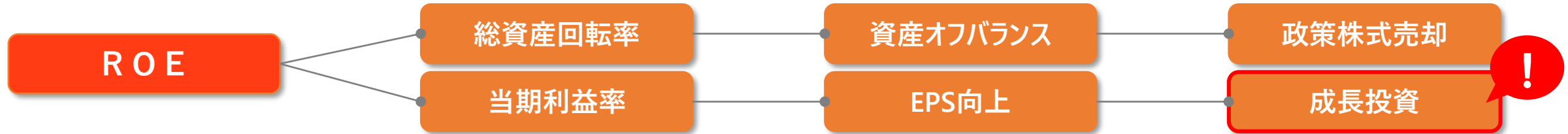
## 外部環境

- ✓ 直近の株高を背景に、連結純資産の比率が上昇傾向

## 縮減方針

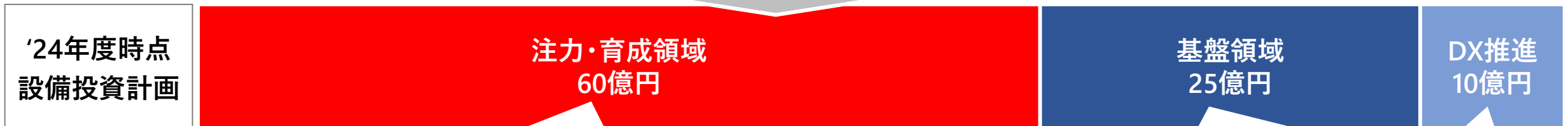
- ✓ 資本コストなどの指標を総合的かつ中長期的に勘案し、政策保有株の縮減を継続的に進める
- ✓ 26年度末 連結純資産比率 15%未満を目標に縮減を推進

# 設備投資計画・成長投資の進捗



(中計「Challenge2024 ロールリングプラン2023」より抜粋)

- ◆ 収益性の高い成長投資案件を優先し、スピード感をもって推進
- ◆ 基盤領域（低ボラティリティであり安定収益が見込まれる）事業への投資も着実に取り組む



✓ 注力・育成領域の投資案件は高い収益性を期待

- 過塩素酸アンモニウム事業：25億円
- 受託電池試験事業：20億円
- シリコンウェーハ事業：10億円
- 研究開発：5億円

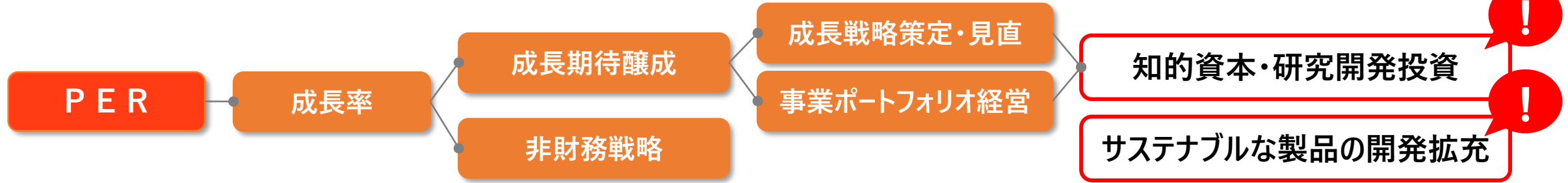
✓ 基盤領域の投資案件は収益性が十分であることに加え、

安定収益や省エネ効果等のESG視点も重視

- 爆薬・保安炎筒事業：10億円
- 省エネ・再生可能エネルギー関連：5億円
- その他 老朽化更新・効率向上投資：10億円

基幹システム最新化等

# 研究開発の推進による成長期待醸成



(中計「Challenge2024 ローリングプラン2023」より抜粋)

- ◆ 研究開発における「2030年のあるべき姿」  
 化学品・半導体分野に特化し、新製品を生み出し、新たな事業を確立する

## 中期経営計画最終年度の取り組み

### 1. 電極事業の新たな挑戦

新規蓄電デバイス材料、水素発生電極(NEDO共同研究)、CO<sub>2</sub>回収

### 2. 電子材料事業の新たな挑戦

イオン性導電材、高分子導電材

### 3. 光・半導体部門の研究開発拡充

高付加価値ウェーハ材料の開発、光学材料の研究

ライフサイエンス

## 実現する未来の姿

カーボンニュートラル実現に向け、  
クリーンエネルギーの更なる普及

エレクトロニクス

スマートフォンなど電子デバイスの  
更なる高性能化・超越

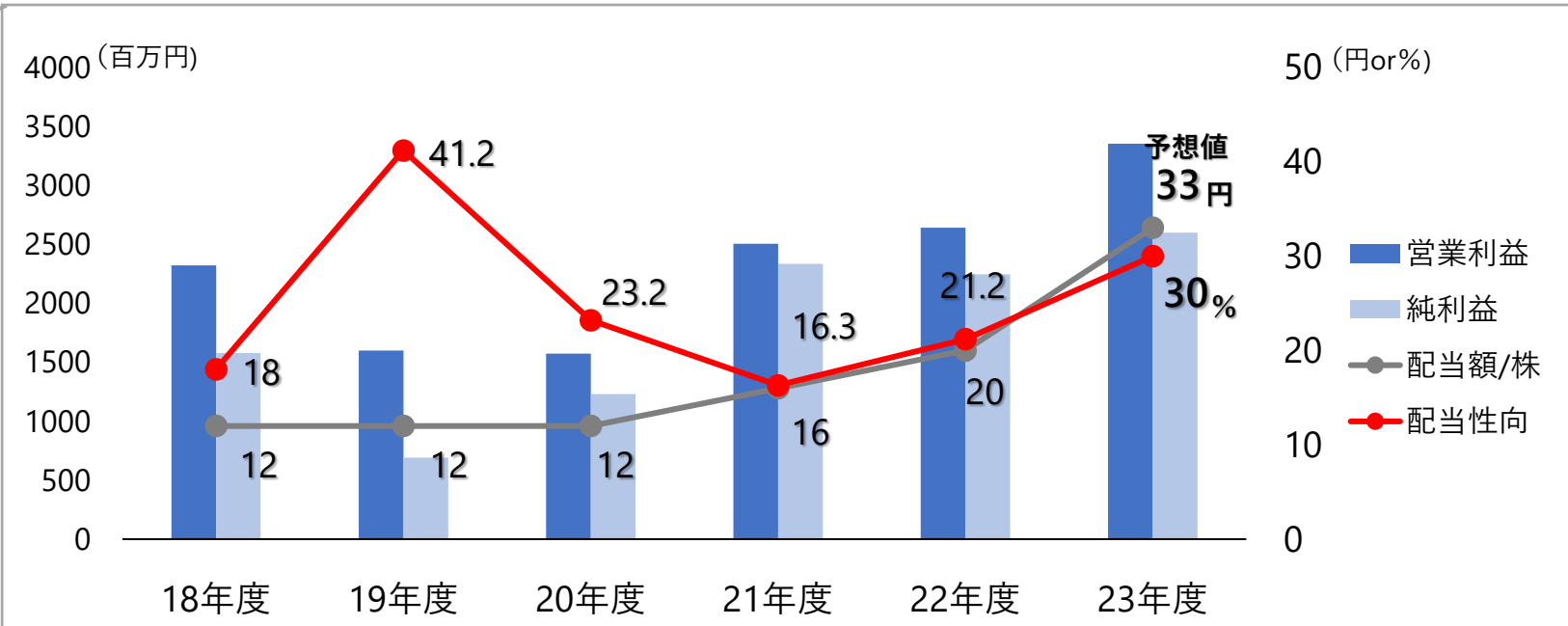
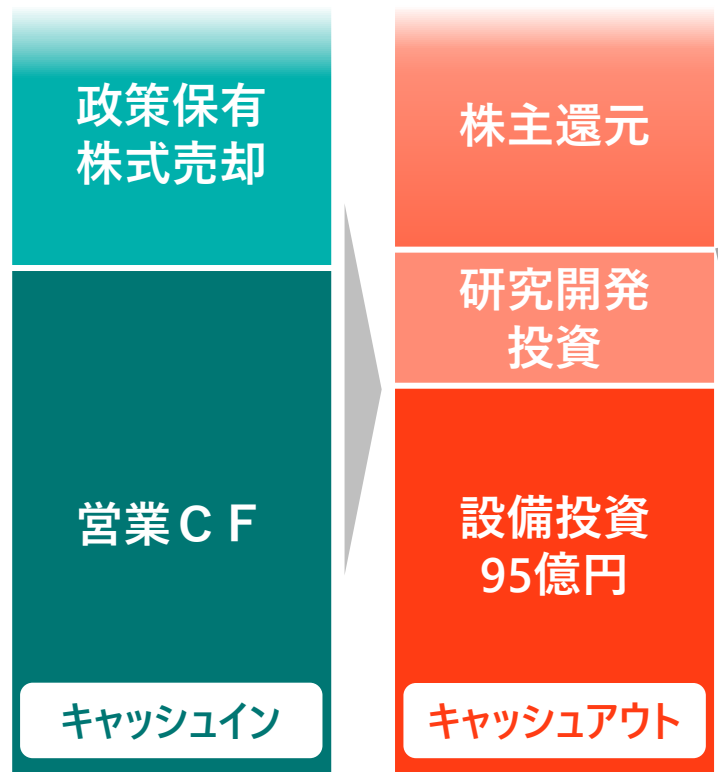


# 業績連動型の安定配当



(中計「Challenge2024 ローリングプラン2023」より抜粋)

- ◆ 適切に財務レバレッジをコントロールし、自己資本水準を最適化、健全性を維持
- ◆ 営業CF・資産売却 等の原資を、投資と株主還元戦略的に配分し、収益性と成長期待の向上を目指す

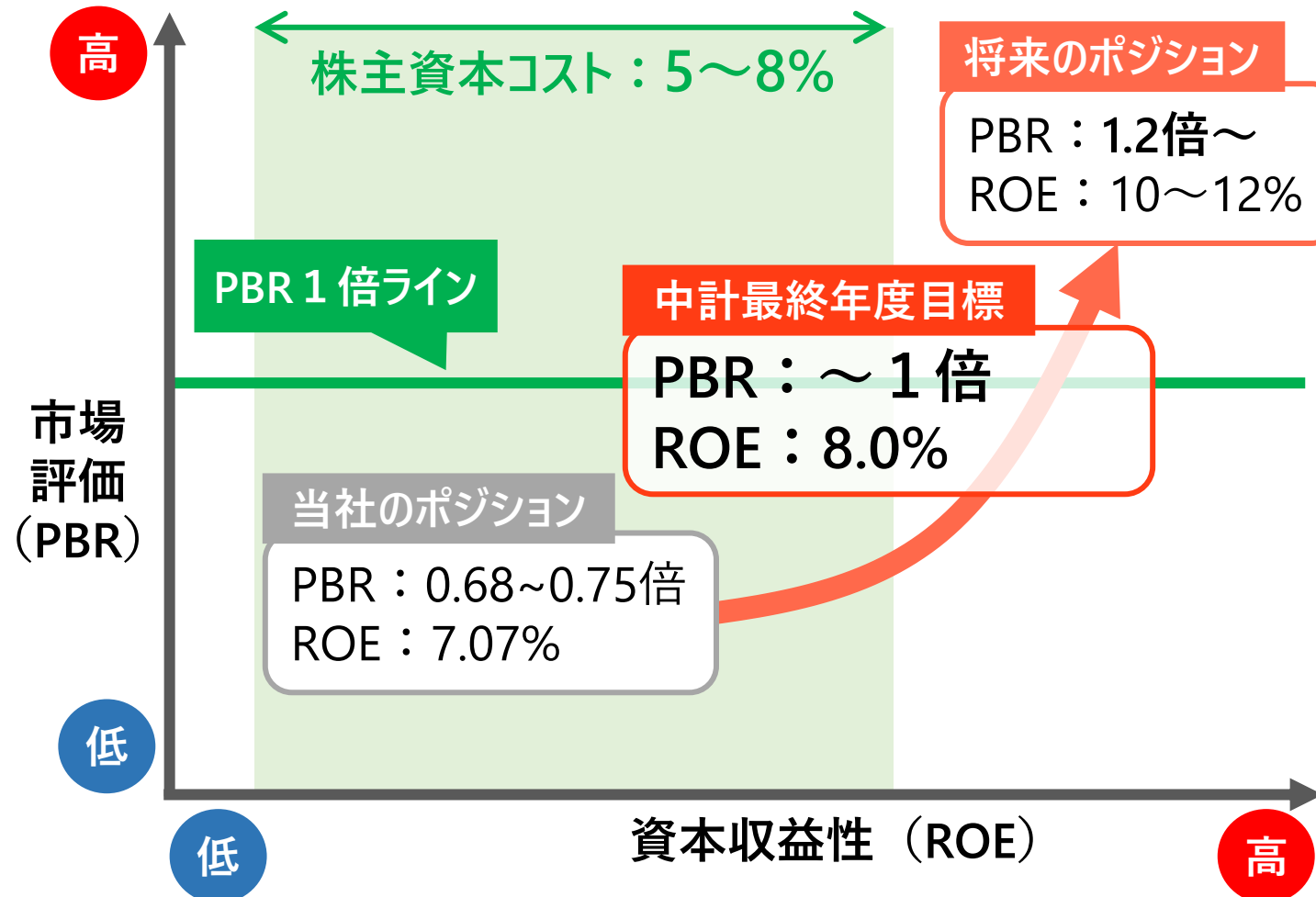


✓ **成長投資に取り組むとともに、総還元性向※を30%として利益還元をめぐる**

※総還元性向 = (配当支払総額 + 自社株買い総額) / 当期純利益

# 中期経営計画「Challenge2024」最終年度に向けて

- ◆ 2024年度は.....中期経営計画「Challenge2024」を骨子に、「ローリングプラン2023」の取り組みを継続  
そして、「グロアアッププラン2024」で更なる成長を目指す



## 中計最終年度の具体策

1. 中期経営計画「Challenge2024」の達成
2. 経営方針 営業利益率 3%~up の達成
3. 財務戦略の推進による  
自己資本の最適化・資本収益性の改善
4. 設備投資と研究開発の推進による  
成長期待の醸成
5. 適切な株主還元の実行

**信 頼 と 限 り な き 挑 戦**



**無 限 の 可 能 性 を カ タ チ に**